

そんならいしょうめい サンタの存在、証明へ

そうさくさいしどう 搜索チーム再始動

えい えん 永遠のテーマに迫る

あいことば 合言葉は「サンタファースト」

今年も「どうしんサンタ搜索チーム」がいよいよ始動する。子どもたちの夢であるサンタクロースが実在することを証明するため、2010年に北海道新聞社が立ち上げたチームだ。去る27日、同チームは搜索本部を置く札幌・北海道新聞社で会見を開き、再始動を正式に表明した。昨年はあと一歩のところまでサンタに肉薄。「今年こそ発見を」という、年々高まる世間の期待に応えるべく、今年の搜索方針と、重要な力キを握る新戦力に関する情報を明らかにした。



「BUNBO」導入
二足歩行するロボットが、取材陣の前に現れた。その物体の正体は、サンタ搜索チームが切り札として導入したAIロボット、その名も「BUNBO（ブンボ）」だ。「じんぶんロボット」から名付けられたこのロボットの特長は、蓄積された驚異的な情報量にある。搜索チームが過去の搜索で得た情報のみならず、サンタの歴史や目撃情報まで、あらゆるサンタ情報、BUNBOの頭に叩き込まれているという。人間が到底及ばないような豊富な知識をもとにサンタの行動を予測し、捜査員たちにアドバイスができるロボットだ。

「サンタファースト」。搜索チーム本部長を務める三田育三（みた・いくぞう）氏は、今年の搜索方針を高らかに宣言した。その意図として次のように語る。「サンタ搜索にあたり、何を大切にすべきかチーム内で議論を重ねた結果『サンタの気持ちにもって寄り添うべき』という意見が上がりました。サンタは多くの子どもたちにプレゼントを届けており、かなりの仕事量であることが想像できます。つまり、サンタは働き過ぎと言っている。今の日本において、それは見過ごすことのできない状況です。そこで『すべ

てはサンタのために』という気持ちで、サンタを思いやりながら搜索を進めようと呼び掛け、サンタファーストという言葉につなげたのです」。

その取り組みの一例が北海道新聞社の屋上にある通称「サンタヘリポート」の再活用だ。2012年に設



搜索の目玉として搜索チームが発表したAIロボット「BUNBO」。本格的な導入は12月上旬を見込む

め、教えれば教えるほど、予測やアドバイスの精度が高くなるという。開発担当者「多くの注目を集めているAI。子どもたちの夢のためなら」と、導入が決まりました。日に日にサンタ搜索のノウハウを習得し、既に第一線で活躍できるまでに仕上がっています」と自信をのぞかせる。

このロボットがいかにどの活躍を見せるか、要注目だ。

ほん 本という幸せを贈ろう

あすか書房サッポロファクトリー店に聞く

子どもから大人まで幅広く親しまれているクリスマスプレゼントの定番の「本」。その今年の人気の傾向を探るべく、サッポロファクトリー（札幌市中央

区）内「あすか書房」でチーフを務める加納あすかさんにお話を伺った。「クリスマスを題材とした本だけでなく、目的や好みに合わせて多くの本がク

リスマスプレゼントとして選ばれています」と加納さんは話します。例えば、多くの小中学校で行っている「朝の読書で読める挿絵のない本や、大人向けの内容をわかりやすくした児童小説、さらに飛び出す絵本や音の出る絵本といった仕掛け絵本が人気という。「おじいちゃんおばあちゃんとお孫さん、学校で話題の本をお互いのお孫さんの姿を見ているとこちらも温かい気持ちになります」と加納さん。12月上旬からクリス

マスコーナーをさらに充実させ、多くの笑顔を見るのが楽しみとほほ笑む。

なお、大人はメディア化された小説が人気。11月3日に毎年恒例のクリスマスジャンボリーが点灯され、過去にも多くのサンタ目撃情報が寄せられている商業施設内にあることから、カッパルの来店も少なくない。加納さんは、バスデブックという、生まれた日の内容が記された本をクリスマスプレゼントとして購入し、パートナーに贈るという光景を良く見ますという同店ならではの傾向も教えてくれた。



「サンタにもぜひ本を贈ってほしい」と話す加納さん

「クリスマスまであと1ヵ月を切った。今年は大切な人に本をプレゼントしてみたいかだろうか。」

「クリスマスまであと1ヵ月を切った。今年は大切な人に本をプレゼントしてみたいかだろうか。」

クリスマスプレゼントには 図書カード

全国ほとんどの地域で使えて、お好きな本が選べる図書カードNEXT。仲間たちとのクリスマスパーティに。遠くに住む子や孫へ。さりげないクリスマスプレゼントにぴったりです。

おすすめは
ピーターラビットデザイン

ピーターラビットデザインは500円、1000円、3000円、5000円の4種類。ちよつとしたお菓子やメッセージを添えると、心のこもったおくりものになります。

ありがとうございます
気持ちを伝えよう

企画制作／北海道新聞社広告局
この広告企画は、お子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含む場合があります。次回以降は12月上旬朝刊予定です。